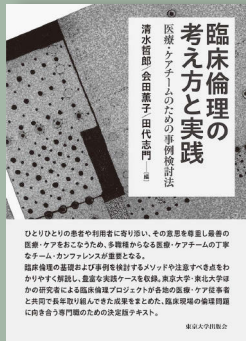


今月の 新刊紹介



臨床倫理の考え方と実践 医療・ケアチームのための事例検討法

編集：清水哲郎、会田薫子、田代志門
発行：東京大学出版会
定価：2970 円（本体 2700 円＋税）
B5 判 180 ページ

研究者と臨床現場の医療・ケア従事者が共同作業で 30 年以上取り組んできた研究に基づき、倫理問題に対する考え方と実践の集大成。臨床倫理の検討の進め方や注意点を分かりやすく解説。最善の意思決定支援に向き合うチーム・カンファレンスにおすすめ。



不安の時代に、ケアを叫ぶ ポスト・コロナ時代の医療と介護にむけて

著：川口有美子、新城拓也
発行：青土社
定価：2420 円（本体 2200 円＋税）
四六判 276 ページ

本書は、難病介護のスペシャリストと、在宅の緩和ケアのスペシャリストによる対話で構成。コロナ禍の今、その先で、「生きたい」を支える医療と介護を創るためには、実践の現場から何を考えることができるのか。現場に身を置く 2 人が生々しく語る。



越境学習入門 組織を強くする「冒険人材」の育て方

著：石山恒貴、伊達洋駆
発行：日本能率協会マネジメントセンター
定価：1980 円（本体 1800 円＋税）
A5 判 256 ページ

近年、「越境学習」への関心が高まっているが、そのメソッドや概要は明確化されていない。本書では、多くの企業における越境学習の研究を通じて、その全体図を明らかにし、企業と個人が越境学習を開始・実践するノウハウを解説している。



人を思い、地域を耕し、 社会を変える人々と 地域包括ケアを現場で語る

編著：高橋紘士
発行：木星舎
定価：2970 円（本体 2700 円＋税）
A5 判 288 ページ

「地域包括ケア」という言葉を再構築すべく、編著者の高橋氏が各地の実践者として行った対談や座談会を収載。「地域包括ケア」がこれまで歩んできた足跡をたどり、その足跡の深さを確かめられる。前例を超えた取り組みを志す実践者にとって、必読の 1 冊。



70歳からは超シンプル調理で 「栄養がとれる」食事に変える！

著：塩野崎淳子
監修：若林秀隆
発行：ずばる舎
定価：1430 円（本体 1300 円＋税）
A5 判 144 ページ

食が細くなったり料理が面倒になったりと、高齢者の「低栄養」は隠れた健康問題だ。高齢者在宅栄養指導を行う著者が教える、栄養に関する「まずは押さえておきたい」知識と、料理が苦手でも実現可能なレシピのアイデアが惜しみなく詰まった 1 冊。



看護管理に
効く
1 冊

Unlearn (アンラーン) 人生 100 年時代の新しい「学び」

著：柳川範之、為末大
発行：日経 BP
定価：1760 円（本体 1600 円＋税）
四六判 256 ページ

Unlearn とは、「学びをなくす」ことではない。これまでに身に付いた思考のクセやパターンを取り除くことで、新たに学び、成長し続けられる状態に自分を整える技術のことだ。変化の激しい時代の中で、活躍・自己実現したい方に最適な良書。